

北上市景観まちづくりフォーラム

平成22年2月27日(土) 13:30~16:30

日本現代詩歌文学館

参加者99名

I. 開会

II. あいさつ

北上市副市長 及川 義也

今日はお忙しい中、このようにたくさんの皆さんにフォーラムにご参加いただきまして、ありがとうございます。心から御礼申し上げます。北上市は平成22年度、新しい年度の予算を組み立て、3月4日から審議会でご審議いただくことになっています。平成22年度の北上市のそれぞれの分野におけるまちづくりに予算、資源の配分をさせていただくものであります。まちづくりと言われていますが、私の考えで簡単に言いますと、それぞれの地域に住んでいる個人個人が毎日の生活の中でよりよい暮らしづくりをしていくことがまちづくりであろうと思っています。



地域には様々な資源や伝統文化、歴史などがたくさんあります。そういうものを生かしていく、それが地域づくりであり、北上市全体のまちづくりの基本であろうと思います。

地域で暮らしていると、なかなか地域の良さ、財産、資源を見落としている所もあろうかと思いません。そういうものをすくい上げる、作り上げるということで平成16年だったと思いますが、地域計画というものを地域で立ててもらいました。それぞれの地域の人たちの身の回りの大きく言えば環境でもあり、再確認をしていただき、どのような環境の中で毎日の生活をするのが市民にとって、我々にとって幸せなのか、満足なのかということを考え、16地

区で地域計画をつくっていただいたものであります。

そのなかでも、景観について非常に多く提案をいただきました。やはり、こういう社会情勢の中、自然も含めてどういう地域の中で暮らしづくりをやっていけばいいのかが非常に大切なことかなあと思います。人間関係が希薄になったといわれております。地域コミュニティーもそうだと思います。どういう隣近所の関連の中で生活ができることが幸せなのか、ゴミの問題、自然の問題、様々な問題が地域にはあるかと思えます。

その一環として、昨年9月30日に景観計画、景観条例を制定させていただきました。これは各地域の自治協議会、ワークショップ等、多くの市民の参加によって景観計画、景観条例が出来上がったものであります。本年4月から全面的施行に移っていきます。特定地域を定め、特にその地域ではいろいろな届出や手続き等も決めてございますので、ご理解いただきながら、地域の景観を守っていきたくと考えてございます。

今日は景観資産52カ所認定をさせていただきました。各地域からも「我々の地域ではこういう景観を守っていきたく」という提案をいただきました。これを継続して、それぞれの地域、市民全体で守り、育てていくということが必要な時代だろうと思っています。本日のフォーラムを通じ、地域の景観についてさらに認識を深めていかなければと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

今日ご参加ありがとうございました。

III. 景観づくりの取組報告

北上市都市計画課 佐藤 友美

・景観計画の概要

北上市は昨年9月30日、景観計画と景観条例を制定いたしました。景観計画と条例につきましては各地域の皆さん、事業者の皆さん、そして行政とが一緒に景観づくりを進めていくための内容となっております。景観計画については平成18年から約3

年半にわたり検討を行ってまいりましたが、景観計画概要版に盛り込まれている内容は16地区の自治協議会はじめ多くの市民の方々、建築士会の皆さま、カラーコーディネーターの方など専門家の皆様にご検討いただいてまとめた内容となっています。この3年半の中で何度も議論を重ね、本当にたくさんの方の手によってまとめられた計画となっています。改めて皆様のご協力に感謝いたします。

さて、今年4月から景観計画、景観条例が全面施行となります。北上市の景観づくりを進めていくために、景観計画条例に基づいて大きく分けて2つの取組みが始まっています。

1つ目は大切な景観を壊さないための取組みとなります。いわゆる行為制限というものになりますが、4月から景観の届け出制度というものがスタートします。北上市内で一定規模以上の建物を建てる際あるいは色の塗り替えをする際は、4月以降は北上市に届け出をしていただくことになります。建物に使える色彩が制限されてくるという内容になっています。

これによって北上市の自然、街並みに調和した景観づくりを進めていくものでございます。お住まいの地域によって届け出が必要となる建物の規模が異なっていますが、今日お配りしている景観計画概要版、届け出の手引きに記載してございますので後ほどご覧いただければと思います。今後、建て替え、色の塗り替えを行う場合には北上市の方にあらかじめご相談いただければと思います。

2つ目の取組みが、これから景観づくりを進めるにあたってメインとなる内容です。それは大切な景観を守り、育て、次の世代へとつないでいくための取組みです。景観づくりの主役は北上市に住む市民一人一人です。規制するだけでは景観は良くなっていくとは考えておりません。私たちが住んでいる地域を知っていただき、愛着を持っていただいて、身近な景観づくりを取り組んでいただこうということで、その内容を景観計画に盛り込んであります。その取組みは今年度既にスタートしています。今年度に取り組みしました内容は、この後スライドでご紹介させていただきますが、例えば、小中学校での景観学習や修景実験、市民の方向けの講座なども開催してまいりました。

以上、大きく分けて2つの内容となります。北上市の景観を壊さないための届け出制度、地域での景観づくりをより進めて行くための制度、この2つを盛り込んだものが北上市の景観計画になります。計

画づくりの段階から各地域の皆さん、団体の皆さんにもご協力いただいて、皆さまの手によってまとめられた景観計画ですが、今後実際の景観づくりを進めていくにあたりまして、地域の皆様と行政とが一緒に取り組んでまいりたいと思っております。宜しくお願いします。以上が、簡単ではございますが、北上市の景観計画、景観条例の概要となっております。それでは今年度実施いたしました景観学習の取組みなどさまざまな地域で取り組んでこられた景観づくりの取組みをスライドを使ってご紹介したいと思います。

(スライド上映)

- ・景観学習
- ・景観まちづくり修景実験助成事業
- ・北上の顔づくり景観事業
- ・きたかみ景観資産

IV. きたかみ景観資産 認定式

きたかみ景観資産に認定された52の資産について16団体の代表者に、副市長から認定証が授与されました。



認定された皆様へ

北上市副市長 及川 義也

今、きたかみ景観資産の認定をさせていただきました。先ほども申しましたように、まだまだ地域には資産、大切なもの、宝があるかと思えます。今後とも宝・大事なものを地区で見つけながら、それを守り育てていくということがこの景観計画、条例の趣旨でございます。この認定を機会に、さらに地区で力を合わせながら地域の大切なものを再度見つけ、育成していただければと思います。今日は本当にありがとうございました。

V. パネルディスカッション（第1部）

コーディネーター

北原 啓司 氏（弘前大学教育学部教授）

パネリスト

木村 徹 氏

黒岩小学校 教諭
（景観学習）

三浦 啓一 氏

立花自治振興協議会 会長
（北上の顔づくり）

昆野 将俊氏

特定非営利活動法人芸術工房
（景観まちづくり修景実験助成事業）

及川 正男氏

二子町振興協議会
（景観資産認定団体）

高橋 敏彦氏

いわてNPO-NETサポート
（景観サポーター）

北原 啓司氏

これからパネルディスカッションを進めさせていただきたいと思います。パネルディスカッションのタイトルは「地域における景観づくりの重要性とは～今年の活動から感じた『景観』の大切さ～」ということです。

最初に、4名の方々に今年の景観づくりの活動についてお話させていただきたいと思います。その後、ミニ講演をさせていただき、その後、来年度はどういった活動をしようかといったことも含めて意見交換をしながら、楽しくできたらと思います。

先ほど、スライドで昨年の活動を振り返りました。皆さんも改めて、よく知っている自分たちの地域の景観もこうやって見ていくと、なんていいだろうと昔のことが思い出されて、わたしはこの地域の人間ではないですが、見ていて、こういう所で生活したいなあとかゆっくり歩いてみたいなあと思うような景色がいっぱいありました。

景観というのは、その人によって記憶の中に入っていますので、同じ景観を見ても30年前にラブレターを渡した日を思い出したり、5年前に誰かと喧嘩した日に見たある岐路など、いろいろなものが思い浮かびます。そういったものを思い起こさせるようなものを、北上は景観資産として認定して、このようにいろいろな活動をしている方々でパネルディスカッ

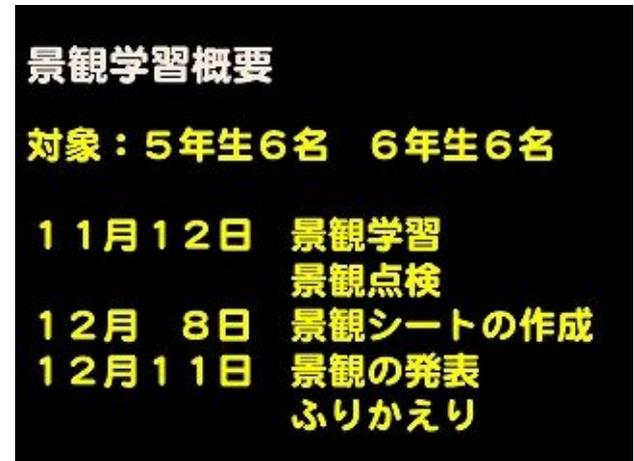
ションができるということ、それ自体が資産だと僕は思います。少しやきもちを焼きながら進めさせていただきます。

1. 景観学習

黒岩小学校 木村 徹氏

北上市立黒岩小学校で現在、5、6年の担任をしています木村です。宜しくお願いします。この度、本校の5、6年生の総合的学習の一環として景観学習に取り組む機会をいただきました。本日は、本校で行われた景観学習の概要について紹介させていただきます。

3回で合計8時間ほど度の取組みをしました。



景観学習概要

対象：5年生6名 6年生6名

**11月12日 景観学習
景観点検**

12月 8日 景観シートの作成

**12月11日 景観の発表
ふりかえり**

・景観学習 1回目

それぞれの学習の内容ですが、11月12日、第1回目は「景観とはなんだろう？」というテーマで北原先生から景観学習についての講義をいただきました。



その中ではまず最初に、景観の「観」、「観る」と「見る」の違いについて、景観の「観」、観るというのは見て考えるということを教えていただきました。

その後、青森県の小学校で取り組んだ写真等を例に挙げられながら、身の回りには景観に馴染まない建築物、馴染むように考えて作られた建築物があること、同じ場所で同じものを写真に撮ったり、見たりしても視点や感じ方の違いによって、様々な景観の魅力や課題が見えてくることを示され、子どもたちに写真を撮ることによって何かが見えてくるよということをお話ししていただきました。

その後、子どもたちに、好きな景観、嫌いな景観、気になる景観という視点で撮影をしようと、まちなみウォッチングの方法について教えてくださいました。子どもたちはお話しに熱心に耳を傾けて早くウォッチングに出かけて写真を撮ってみたいという気持ちを高めていました。見るだけではなく、見て考えることが景観であるということ子どもたちなりにつかむことができました。

その後、2人1組になって、デジタルカメラを持っていつも歩いている通学路をウォッチングに出かけました。学校から出て早速、様々な写真を撮るなど積極的に楽しそうに取り組んでいました。



当日は天気にも恵まれ、子どもたちはいたるところで自由にたくさんの写真を撮影しました。子どもたちは、残したいものから気になるものまで、自然や建物、標識などの景観を多いグループでは100枚、撮影していました。



その後、教室に戻って、各グループが撮影した写真を見ながら、次回の学習内容とそのため準備について説明を頂いて1回目の学習を終了しました。その時の子どもの感想の中には、同じ所を歩いたのに、みんな撮ったそれぞれの写真が違う、いつも見ている景色でも視点を変えれば違うものが見えてきたなど、いろいろなことに気付いたということが書かれてありました。

・景観学習2回目

12月8日には2回目の学習を行いました。発表会で使う景観シートの作成と景観マップの作成を行いました。



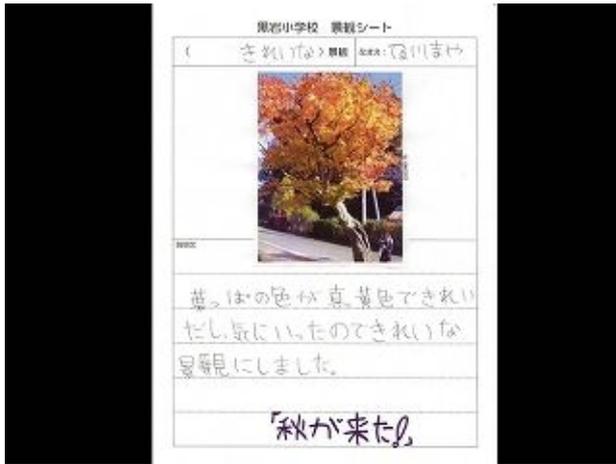
グループごとに撮った写真の中から、残したい、気になる、直したいなどといった視点で1人3枚程度の写真を選んで、キャッチコピーや説明を加えた景観シートを作成しました。子どもたちは自分たちが撮った写真を何回も見比べながら、楽しそうに作成していました。



その後、選んだ写真の場所を確認して好きな景観、残したい景観、気になる景観といったジャンル別に色分けしたシールを黒岩地区の地図に張り付けて景観マップを作成し、2回目の学習を終えました。

次に、子どもたちが作成した景観シートを何枚か

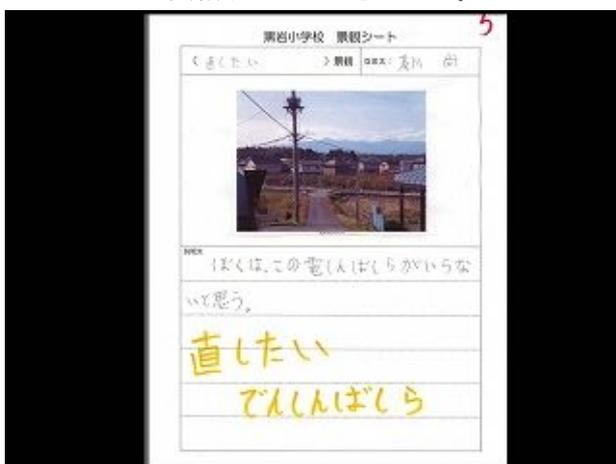
ご紹介します。



これは、きれいな景観ということで鮮やかに赤や黄色に染まった木を子どもが撮ったものです。題は「秋が来た！」です。発表会では、色の美しさによく着目しているというような講評をいただきました。

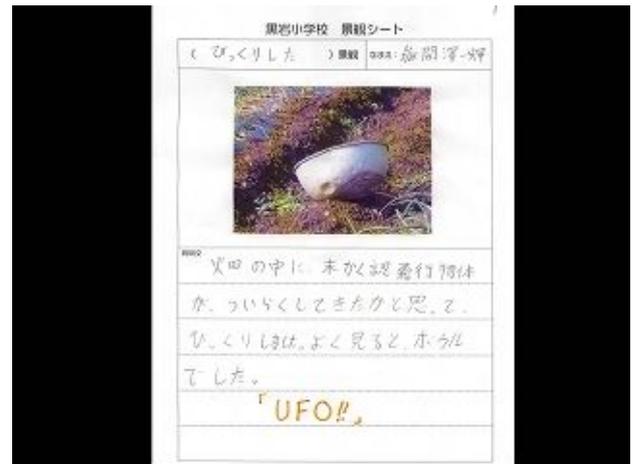


このシートは見られたくない景観ということでゴミが目立った田畑を撮影したものです。題は「見ないで」。タイトルが素晴らしい、写真を素直に言葉に表しているという講評をいただきました。



このシートは直したい景観ということで、高台から北上方面の景色を写したものです。題は「直したいでんしんばしら」。1回目の講義の中に景観に合わないと思われる建造物の例があったのですが、このよ

うな視点で写真を撮ったことがとても素晴らしいという講評をいただきました。

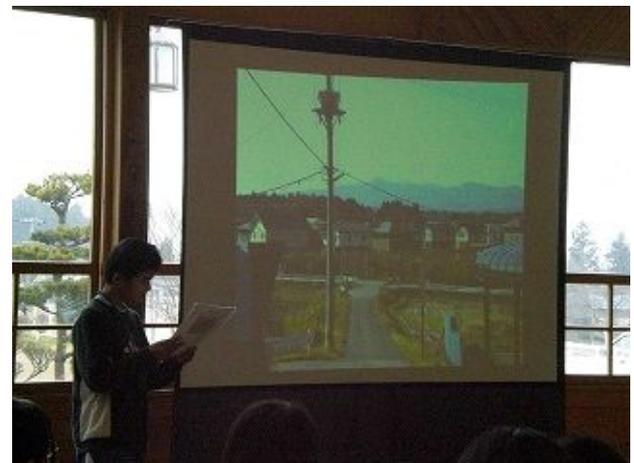


最後に、このシートはびっくりした景観ということで、畑の中に金属製のボールがあり、それを写真に撮ったものです。題は「UFO!」です。この写真についてはキャッチコピーがピカイチであるという講評をいただきました。

・ 景観学習 3回目

12月11日、3回目の学習です。

本校のホールで保護者や地域の方々にもご案内し、発表会を行いました。それぞれが自分が選んだ景観について発表を行い、1人1人の発表が終わるたびに北原先生から講評をいただきました。



子どもたちの目の付け方、写真を撮る距離、角度、付けたタイトル、コピー、それぞれの特徴をお話していただき、みんなにおほめの言葉をいただきました。子どもたちの感想には、発表が楽しくできたことはもちろん、いいところや特徴を北原先生が話してほめてくださったことがとても嬉しく、心に残ったということをたくさんの子どもの書いてありました。それから、友達の発表を聞いて改めて地区には様々な景観があるということがわかったようでした。全員の発表が終わった後に、北原先生からまとめ

の講義をいただきました。子どもたちには、景観はただ見るだけではなく心を通したもので、景色を見て感じて景観を楽しんでほしいというアドバイスをいただきました。



私自身、印象に残ったのは、校歌の歌詞に着目されたお話でした。校歌の歌詞には昔から引き継がれ、大切にされてきた景観の要素がたくさん含まれています。だから私たちは学校を卒業してからいつまでも、特に小学校の校歌を通して地域や学校に愛着を持つものなのだなどと改めて感じました。

・成果について

成果についてですが、第一にこの景観学習を通して、子どもたちに新しいものの見方や考え方を教えていただいたことが一番の成果だと考えております。子どもたちなりに地域の景観が自分の暮らしに結びついていることや景観が地域のかげがえのない財産であること、それからよい景観は未来に引き継いでいかなければならないものであること等に気がついて、改めて普段見慣れている地域を見つめるよいきっかけになったと思います。

それから、景観学習は題材が目に見える身近なもので、テーマも見つけやすくはっきりしており、子どもたちが自発的に楽しく取り組めるものでした。そういったことが学校での総合的学習のねらいにぴったりと当てはまり、よい学習ができたというのが私が考える第二の成果です。正直なところ、冬休みとなって現在3学期となって、改めて景観学習について特別な取り組みはしていないのですが、偶然、5年生の国語で写真を選んでそれを基にして物語を作るという内容の学習がありましたが、その中で5年生の女の子が自分が将来、写真家になりたいという話をつくって、そのきっかけの一つとしてこの景観学習を挙げていました。やはり、子どもたちが体験したことや自分で考えたことは心に残るものだなと

思いました。

・今後について

まだはっきりしていないところもあるのですが、さらに地域に対する愛着を深めるために何か取り組みができればなと思っています。私自身、不勉強でこの先どのようにすればいいかがはっきりしないのですが、まず残したい景観、さらには未来に望ましい地域像とかを絵に表してみたり校歌をもう一度読んでみて、黒岩地区で昔から受け継がれ、守られ、これからも大切にしていきたい景観を実際を探して集めてみる、そのような活動も考えられるのかなと思っています。

最後になりましたが、このような貴重な学習の機会を与えてくださった皆様に感謝の気持ちを述べ、私の報告を終わらせていただきます。



北原 啓司氏

僕はいろいろな学校の景観学習でカメラを撮るのをお手伝いしているのですが、この学校のある男の子は158枚という写真を撮ってきました。一つのものを見るときに連写したり、連写すると面白いので、きつとはまってしまったのだと思います。僕が関わった景観学習で、日本で最も撮った男の子です。ぜひ褒めてあげてください。

2. 北上の顔づくり

立花自治振興協議会 三浦 啓一氏

北上の顔づくり景観事業という大変どにかい名前が付いているのですが、立花は北上で唯一の観光地、展勝地をもっているものですから、そういう場所であるということをどう私たちが受けるのかということが一番ネックなのです。

・取組みのきっかけ、経緯

私たちは16地区センター化になりましたが、3年目になった平成20年度に、センター化になった意味は一体何なのだろうということから始まったのがスタートだと思います。というのは、やはりセンターの持つ意味を私たちがしっかり中味を捉えたうえで地域づくりをやっているんじゃないかということで、地域づくり課さんに来ていただいていろいろ研修をしていただきました。自治組織の役員、地域づくり指導員、生涯学習運営委員、自治公民館の館長さん、あらゆる人に参加していただいて、じっくり地域づくりの必要性、地域づくりをはじめる研修をしたわけです。

その後に、ワークショップをやって、では立花の場合、どうあればいいんだ、何でも「立花の展勝地」「立花の民俗村」と、立花、立花と付くものがたくさんマスコミの中で出てきますが、では地元の人はどう捉えているのかといった場合、立花と付いているからいいんだという感じだけでいいのかということまで、ワークショップでは入っていきませんでした。

では、せっかくあるものを私たちは何も手をかけないでいいのだろうかということが入っていったならば、この貴重な財産である展勝地周辺一帯を含めて、どう自分たちが関わっていけばいいのかという話の中で、陣が丘に全然誰も人が上がっていないという話がありました。

レストハウスはできましたが、上まで上がる必要はなくなったというのでいいのかということも話されました。展勝地そのものも誰も手をかけない、市も大変な状況の中で守られるのか、国見山一帯から見た景色というのもそれでいいのか等、さまざまな話がされました。

では、私たちができることは何か、昔はこうだったということから、陣が丘がもう少し人が登れる、下から見ても登ってみたい、登ったらすごく景色がいい、そういうものをつくる、昔は草刈りなどになっていたのきれいに刈り払いされていたのですが、今は雑木で非常に見苦しい姿になっている、それで観光地と言えますかということで、では自分たちでやっつけようということが始まりだったろうと思います。

景観計画が立てられ、それらがミックスした形で地域の人たちのいろいろな立ち上がりにつながったのではないかと考えています。

展勝地お花畑の会や草刈りなどをする農地研修会、ツツジの会などが立花にはありますから、それらを

基軸として始まったのが、修景実験だったと思っています。

・修景実験の内容

9月27日の修景実験です。これは北上の最大のイベント、北上マラソンの前にレストハウスから男山付近、昔は県道から川がよく見えたよなあということから、まずは頭首工付近のカーブから川が全然見えなくなっていたので、きれいにしようではないかということで、市、県、国のご協力、NPOの皆さん、稲瀬の自治協の皆さんとともに刈り払いを始めました。



非常にきれいになりました。まるで何も見えなかったのですが刈り払いして、スッキリしました。北上川と和賀川の合流点であるということで景色が良いのですが、これを私たちは守っていかなければならないと思っています。

11月6日の点検では、この地域をどのようにすれば、桜まつりにもっと人が来てくれるか、それぞれ私たちが見せたいポイントをつくれればいいのか、陣が丘に人を上げたい、上げるためにはどうすればいいのか様々な議論がされました。この日は霧で大変寒い日でありましたが、皆さんでここをどうすればいいか、駐車場向かい、レストハウス西

側の自転車道は大変茂っていたのですが、これは景観上どうなんだろうということでもあります。3グループに分かれて、1時間半ぐらいかけて全体を回ってみました。



終わった後に、状況を確認したうえで、これからどうすればいいのか、どうすれば見せたいポイントができるか、そのために何が支障しているか、何があればいいか様々な議論をしながら次に進めていこうという話し合いをしました。



11月29日の展勝地修景実験は、前回点検した中味を基にしながら、およそ90名の参加でした。大変多くの皆さんに参加していただき、機械、かま、自動車あらゆるものを動員しながらものすごい量の

刈り払いを行いました。

一つは第2駐車場前です。県道の歩道から50mぐらいを刈り払いしました。大きい木は除き小さい木を刈り払いしました。



もう一つは、レストハウス西側の自転車道の所です。刈り払いしてきれいになりました。春先はもときれいになるかと思えます。



陣ヶ丘については、非常に危険を伴う場所もありましたので、ここは都市計画課とも相談しながら今後の課題として残っています。

今、一か所、レストハウスを眺める場所を風穴を開けましたが、北側にも見られる場所を作りたいという希望を持っています。ちょうどレストハウス真向かいに穴が開くような形になると思いますが、そういう風穴を開けながら陣ヶ丘に人を上げていきたいと思っています。

珊瑚橋のたもとのバス停も非常に見苦しかったということで修景をしました。次に何に生かすかということで地元では「立花茶屋」という名前地元産のものを売れる場所がないかなということそういう活用も考えています。

・成果について

刈り払い、伐採をすると非常にきれいになります。

終わった途端に、今年花が咲く前にもう少しやらないかとなります。県道沿いはまだ90mやっただけなので、あと倍以上あります。またすぐやらないかという話もありますけれど、毎年、持続してやったほうがいいのではないかと話をしてしています。きれいになると気持ちいいし、すぐやろうとなるのもいいのですが、毎年同じ時期にコツコツとやりながら順序にやっていくべきだと思っています。

これらも生かしながら、最近出来上がったものがあります。立花周辺の名所旧跡案内、ウォーキングコースマップです。それから、さわやかトイレ前に大きな看板を立てました。展勝地一帯をウォーキングする方にご利用いただけると幸いです。

景観と地域づくりは一体でやるべきだと思っています。あまり大きくするのではなく、息長くコツコツとやるのが景観づくりではないかと思っています。ありがとうございました。

3. 景観まちづくり修景実験助成事業

特定非営利活動法人芸術工房 昆野 将俊氏

市の景観まちづくり修景実験助成事業という補助金をいただき取り組んだ、「光のオブジェ」による文化の街並みづくり実験事業を紹介させていただきます。

・取組みのきっかけ、経緯

この事業は今まで紹介されたような取り組みとはちょっと違って、自分たちみんなで作る景観という部分に注目していただきたいと思います。

さくらホールを建てる際、周辺の屋内公園の部分もきれいに修景して建築していただき、大変心地よい空間になりました。



昼は散歩やジョギング、暖かい時期だとお弁当を

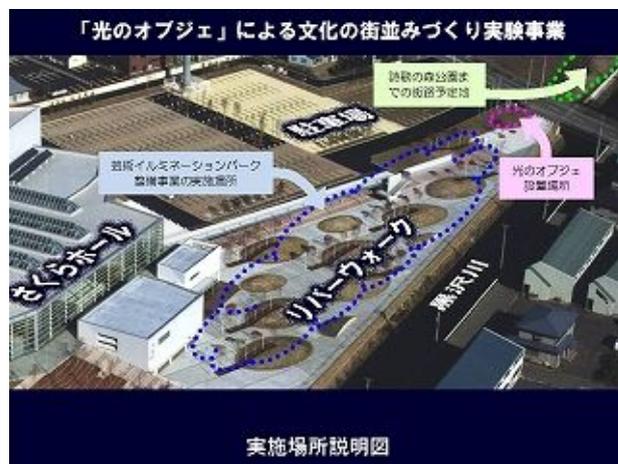
食べている人達もたくさんいらっしゃいます。夜になると真っ暗で、ふつうの公園と違って街灯がありません。なので、入口がはっきりしない、様子が良く分からないような状況になっております。

わたしたちのNPOで、ここを夜でも歩いてみたくなるようなことをやれないかということで毎年、イルミネーションの飾り付けをしております。2006年秋から始めた事業なのですが、イルミネーションを飾り付けすることによって皆が行ってみたいくなる、少しでも芸術に触れてもらいたいということも狙い、こういった事業をしております。



今日、景観資産にも認定していただきました。毎年、11月から1月まで点灯しています。どうしてもイルミネーションというと、クリスマスのデコレーションというイメージだと皆さん、思いがちなのですが、我々は光の公園づくり、芸術公園づくりという意味合いで取り組んでおります。資金はNPO、市民の皆さんの募金、協賛によって運営しております。全て飾り付けも皆さんの手作業で進めています。

・修景実験の内容



上空から見た図ですが、真ん中のリバーウォークとある部分が屋外の公園の部分です。左側にさくらホールがあり、大ホールの正面の丘の部分にも昨年

からイルミネーションによる光の丘ということでエリアを拡大しています。右上の方に道路があり、詩歌の森公園まで街路を整備する予定になっております。今、空き地になっていますが、その部分でさらに公園づくりを広げ、結びつける光のオブジェを作ってみようと思っているのがゲートの横です。



ゲートの横にある、小高くなっているマウントに光のオブジェをつくり、景観の要素として有効に使えるものか、将来、光だけでなく様々な市民の手作りのオブジェをつくり、文化の薫りをたくさん増やしていきたいということです。分電盤から電源を供給するルート、電源を時間帯で点灯することができるよう、分電盤の中にタイマーを組みこませてくださいました。



左側の方から電源を取り出すような形にしています。分電盤から先ほどの場所までケーブルをつなげなければならないのですが、仮設だと耐久性の問題だけでなく引っ掛かるなどの危険性もありますので、せっかくお金をかけるのであれば埋設配管してしまおうということで埋設しました。先端のケーブルの取り出し口はイルミネーションの電源を使わない時期は収納をしておけるようにボックスを埋め込んでいます。



電源工事が終わって、オブジェの制作に取り掛かったのですが、制作は11月7日に行いました。募集をして当日延べ9名に参加していただきました。専北の美術部の皆さんにも参加してもらう予定だったのですが、インフルエンザが大流行し、外出禁止になったため、残念ながら前日キャンセルになりました。



オブジェフレームの組み立ては、さくらの花びら2枚を立体的に組み合わせてフレームを加工しました。さくらホールを参考につくっております。



ライトは、省エネと耐久性に優れているので、LEDライトを使っています。電気料は普通の電気の1/

たときに嫌だという人がいるのではないかということもありますが、しかし新しいものを作っていかなないと、この景観も100年後の北上では「100年前のおじいちゃんがやったんだ」という話になり、また新しい景観なのです。ですから、その辺りはあまりビビらないで新しいこともやっていかなければならないと今、見ていて思いました。ありがとうございました。

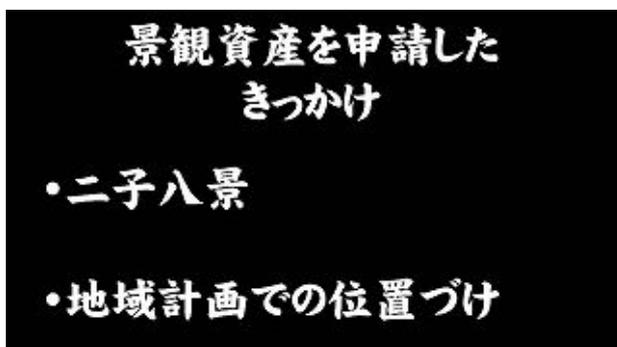
4. 景観資産を活用した地域づくり

二子町振興協議会 及川 正男氏

・景観資産を申請したきっかけ

景観と一口にいても、人の目で見えるものですからいろんな意見があると思います。これが1位、これが2位というのではなく、どれも二子のいいところということから発想してしました。

この申請をするきっかけになったのが二子八景というものがあり、100年ほど前に先人達が二子八景を作っていました。もちろん、写真がない時代ですし、カタカナで書いてあるので特定できないわけなのです。前の八景は探し当てられないということで、では今の八景を作ろうではないかということで数年前から取り組んでいました。



文化遺産、名所旧跡、歴史遺産がたくさんありますので、そこからいろいろな形で地域おこしをしようということで、計画にも盛り込みました。ワークショップをしたり、景観コンペに参加したり、なるべく町民に参加してもらうようお願いしました。そして、何百枚にのぼる写真を2年ほどかかって撮りました。ここは冬がいいなとか、ここは夏がいいな、ここは秋がいいな、ということでもいろいろやりましたが、どうしても絞り込めずに昨年の文化祭をめぐりに12地区まで絞り込みました。春夏秋冬の写真12か所を文化祭に展示し、まずは町民に見ていただくということで、「ここは冬の方がいい」とかいらい

ろなアンケートをいただいて最終的には八景に絞りたいと思っている所です。

昨年は名所旧跡と歴史遺産を含めた景色に散策マップを作りました。散策マップはA4判で三つ折りにしてポケットに入れて持って歩けるサイズにして全戸配布しました。そうしましたところ、二子の人でさえ見たことがない、行ったことがないといった話が出てきました。それから江釣子さんのように大々的ではないのですが二子にもかなりの数の湧水がごございます。当時は湧水で野菜を洗った時代もあります。うちの方では清水のほかにいどっことも言いますので、いどっこマップも作りました。ほとんど風化されておりまして、そちらは風化と書いてあります。今現在残っているのも十数か所残っていただけだったので、そちらも大きくポスターにしたところ、いいなあという話になり、住民が宝物さがしをしてくれたということでごございました。最終的には12か所に絞って今回申請させていただきました。

・景観資産についての説明

北上川河川敷のところは草がボーボーでしたが、花桃を植え草を刈ったら、ごみがびたっと止まりました。それ以前は大きなものでは冷蔵庫も捨てられ非常に見苦しいところでしたが良くなりました。

二子は北と東が川で西と南がグリーンベルトと申しまして、要するに林ですが、それに囲まれた玉子型の平坦地なわけです。北の八幡さまはよく知っているのですが南の天満宮さんはよく知られていないということで、ここは南の天満宮と大杉ということで、小高い所にある閑静な所でごございます。



これは二子の田園風景です。川と緑に囲まれた田園風景です。

二子の名前の由来は、山が二つあることから二子という名前になったのではないかとわれています。その山を遠くに眺め、御前神社を見る景色も気が休

まる所の一つです。



成田の一里塚と二子の一里塚でちょうど一里です。奥州街道で唯一ここだけが残っているということで二子の財産です。電信柱等が非常に邪魔なので将来、なくなるようになればと思っています。



ここは和賀氏一族の墓所、五輪壇と呼んでいます。ここは斉藤館という屋敷跡の一つですが、ここはその跡にできた公園です。今は野鳥のすみかとなって、魚も泳いでいます。非常に閑静な所です。



昭和橋と鑑が淵という所ですが、山の方に殿様がいたということです。負けたときに金銀財宝を鑑と一緒に沈めたといわれています。今でも潜り込めば何か出てくるのではないかとロマンを掻き立てら

れるところでは。

白鳥神社境内から北上川の川面を見た風景です。木々が心洗われると申しますか素晴らしい所です。ここは飛勢公園から見た風景です。



ここは八幡さんの参道のまっすぐな石段です。

・今後の景観資産を活かした活動

21年は修景実験にも参画しまして新しい景観をつくっていかうということで、交流センターの隣にバス停留所を作ったりしました。清水もそうなんですが、一番知られていないのが町民、身近な人が知らない、立花さんも新しいマップを作られたようですが、それを作ると他所の人が見に来るんです。町民はわかっているよという感じでなかなか行きません。まずは町民周知から進めてまいりたいと思っています。春夏秋冬の12景から、さらには今年度が第一次の地域計画の締めですので、ここまでは八景に絞ってまとめたいと思っています。

余談ですが、二子には和賀の殿様の屋敷跡がたくさんあり、宿場町で今の宿という地名があるのですが、その街並みが非常によかったのです。ですから、このような景観の話が100年前とは言いませんが、50年前に起こっていれば大内宿を凌ぐような屋敷がそのまま残ったのではないかと思います。今はみんな解体され、立派な家ばかりになってしまいましたのでこれからは無理ですが、50年前にさかのぼれたら、残念だなあと思いながら景観づくりに取り組んでいる所です。ありがとうございました。

北原 啓司氏

きたかみ景観資産にはずいぶん申請していただきまして、ああいうものを見てみると、他の口内や和賀なども「あそこまで出すんだったらうちだって出すぞ」という気持ちになるのではないかとことです。

写真が出てきたときに及川さんは別に原稿を読んでいるわけではなく、ノー原稿でしゃべっているんですね。言いたいことはいっぱいあるし、想いがあるからなんです。今回、二子に数で負けたなどという地区は随時応募していただけたらと思います。



一つお話すると、先程、副市長さんがきたかみ景観資産を53こと言って、間違えたというようなことを言われました。しかし、今日配った資料を見ると、確かに後ろに53番まであるんです。ところが資産認定は52個なんです。

なぜかという、僕は選ぶときの会に出たんですが、一つ惜しいのがあったんです。53個あったんですが、1つだけ今回はちょっと待ってほしい、決して資産でないというわけではないのですが今は育つのを待とうというところがあります。実は38番というのがこの地図の中にはありません。ミスプリントではありません。わざとです。

僕は北上市役所はすごいなと思っています。その時、みんなでいずれ38番を認定しようということで、抜けています。

それは岩沢自治会が出した水沢鉦山跡地です。とても素晴らしい産業資産です。我々はとても大事な景観だと思いましたが、災害のために道路状況が非常に悪くなっています。みんなが見に行こうと行って行く途中に交通状況的に今整備されていませんので、ぜひこれは皆が行けるように道路の整備をしてくださいという注文をつけて今回選ばなかったわけです、落とされたわけではありません。

そういう資源がまだまだあるということで、そういう気持ちを込めて、あえて38番は抜けています。意味がある38番だということでご覧いただきたいと思います。

高橋 敏彦氏

北上市が景観計画を作り始めてほしい3年位か

かっています。当初から各地区の景観資源探しをしました。その時から我々も各地区に多くの景観資源が眠っているということにびっくりしたのを今、景観資産に認定されたものを見ながら思い出していました。おそらく、まだまだ資産になる景観資源が眠っていると思いますので、これからぜひ、どんどん各地域がそういった資源をあげていただけたらいいなと思っています。

今日、条例ができてから初のフォーラムということで、実は私がここに座っているということよりは、本来であれば10年前にこの活動を始めたのは北上デザインネットワークという団体が、建築をやったり写真家、造園家といった10名ぐらいのメンバーが集まって北上市は誘致企業がいっぱいあって豊かに見えるけれど、実際のところ、中心市街地もそうですし、文化的にもちょっと殺風景だよねというような話の中から、では誰が悪いんだろうという話になりました。

実は建築設計、写真家、気付いた人たちが発言をしてこなかったことが一番悪かったんだよねということで10年前、自分たちが今までの罪滅ぼしも含めて北上市の景観を良くする活動を始めましょうということでつくったのが北上デザインネットワークだったんです。

そのなかで毎年、岩手県の予算であったり国の予算であったり市の予算であったりを使わせていただきながら少しずつ活動をしてきました。今日もさまざまな景観学習等も出てきましたが、その当時は7、8年前になりますが、ほとんどノウハウもないまま、ほとんど見よう見まねで景観学習、景観点検をやってきました。

その中で一生懸命お付き合いしていただいた広瀬川の地域の方々、その方々が中心となって広瀬川まちづくり倶楽部をつくって自分たちで景観を良くしていく活動をしているというのは非常に嬉しいことだと思っています。今日のこの日を迎えられたことを非常にうれしく思っています。

北原 啓司氏

僕は今年、先ほど発表された方々の何人かの活動、発表会、ワークショップに参加させていただきました。今日のお話を聞いて、僕からエールを込める気持ちで皆さんの今年の活動についてミニスピーチをパワーポイントを使ってやりたいと思います。

タイトルは「景観人のススメ」でやらせていただきたいと思います。景観人養成講座を2回ほどやら

せていただきまして、それも含めてお話させていただきたいと思います。

VI. 講話 「景観人のススメ」

北原 啓司氏

そもそもなぜ、北上が景観計画をつくることになったか、そのきっかけとなった景観法について簡単に説明したいと思います。これは和賀西中学校の1年生で教えたものです。

1. 景観法って知ってますか？

法律だからといって、難しいものではありません。景観はこれまでは規制する、つまり看板は高さ〇m以上作ってはいけない、〇〇してはいけないということでしかやってきませんでした。しかし、景観というのは規制するのではなく創造していく、つくっていくものです。つくっていくときに〇〇してはいけないというのはあまり合わないと思うのです。僕はこのように解釈をして中学生たちに教えました。

こんな景観にしたいという景観を楽しみたい人の気持ちを形にする法律だろう。こんな景観を見ていたい、こんな景観の場所で田植えをしたいということなのです。

そのなかでも北上は3つ出しています。

景観を「まもる」ということ。北上の美しい自然景観や昔からの素晴らしい歴史的な景観を守っていく。

景観を「つくる」。新しい建物、仕掛けも100年後には歴史的な景観になるのです。私たちは今、江戸時代のものを見てすごいと言っていますが、今、建築家が作っている建物が、例えばさくらホールが100年後、北上にはこんな建物があったんだという歴史景観に変わります。景観は現在進行形です。過去の遺物ではありません。だから、これから皆さんがやっていくこと自体が100年後、200年後のときに「昔のうちの先祖はこんな活動をしていたんだよね」という風になるんだという自負も必要だと思います。

景観を「育てる」。僕はまち育てという言い方をしているのですが、まちづくりというのはつくる時代ですが、今はつくってきたものを育てていく時代ですから、今見た景観が来年ちょっと変わってくると思うんです。それは皆の関わり方です。

例えば、景観資産に認定したおかげで、みんなの

気持ちが守っていかなきゃ、育てていこうという気持ちが入って足繁く通うようになると、穴が見つかってきて「よし、ここを掃除しようか」「伐採しよう」となれば明らかに、先程の修景実験ではないですが、5年後同じ所の景観は変わります。僕はそういうのに期待したいと思います。

○北上市は景観計画を策定しました

景観法を使いながら、北上の景観をまもり、つくり、育てていきます。

- ・景観人養成講座
- ・景観教室
- ・顔づくり修景事業
- ・景観まちづくり修景実験
- ・きたかみ景観資産

1年の間にこのような事業が横並びで進んでいるというエネルギーにただ驚くだけなのです。みんな一緒に景観人になろうかということだと思います。景観人とは景観を愛でて楽しむ人たちです。

2. 景観人のススメ

黒岩小学校での景観教室、景観人養成講座でやったことをご紹介します。皆さんの活動についての感想をお話したいと思います。

○景観を「つくる人」と「たべる人」

- ・これまでの景観行政

これまでの景観行政は景観をつくる人、役所の人が地域の人に対して、「ここはこんな色を使ってはいけません」とか「ここではこういうものがないですね」というような規制と誘導という非常に曖昧な言葉を使っていました。

食べる人は「この景観美しいな」と愛でるか「こんなまずい景観食えないな」と憂うか、こんな活動しか我々は参加できませんでした。

さっきの活動されている方々のお話は愛でて憂うだけではありません。関わっています。

○景観を「たべる」景観人をめざして

「景観人」を育む教育こそ、景観教育の切り札、これは景観をつくるのではなく舌の肥えた景観人、美味しい景観をおいしいといえるそういう人を地域で育てていくことが大事だと思って、黒岩小学校や和賀西中の子どもたちにお話をしました。景観はおいしいだろう。

3. 景観をおいしく食べる

(1) おいしい食材をみつける

この地域にどんなおいしい食材があるかもういっぺん確認することです。それを見ながらマップを作ったりすることです。

- ・自分たちの地域に、こんなおいしいものがある
- ・自分はおいしいと思わないけれど、他所から来た人はけっこう褒めてくれる。他の人が食べたらけっこうおいしいのかもしれない

そういった地域の素材を自分たちが見つけていくのも景観人です。

つばさのお父さんの「景観教室」

—黒岩小学校&和賀西中学校—

○「景観（けいかん）」ってなんだろう？

僕は大人に対しても子どもに対してもこの授業をしました。

景観ってわかりますか。小学校4年生でも「景観」という漢字を知っています。書き取りできなくてもいいんです。「景」はすぐにわかります。「景」は景色（けしき）、風景（ふうけい）の景です。では「観」はどうでしょう。そうです、観察の観、参観の観です。では、訓読みで何て読むのと聞いたら、黒岩小学校の子どもはすぐに言いました。「みる」。習っていないはずなんですすぐに言いましたので、黒岩の子どもはすごいと思いました。

観はみること。みるんだったら、どうして「見る」という感じを使わないのでしょうか。なぜ「観る」なんでしょうか。これが我々が今、考えなければならぬことなんです。

つまり、「見」は目で見ること、「観」は大人になったら主観、客観というときに使います。つまり観は視神経を通してみるのではなく、そこから間違いなく頭、心、気持ちに入っていく「みる」ですから、同じ風景を見ても違うと思うのです。それが「観る」です。

○観る

- ・見て、ちょっと考えてみる
- ・見て、ふしぎだなあと思う
- ・見て、好きだなあと思う
- ・見て、ちょっといやだなあと思う
- ・見て、もっと見たくなる

見て、の次が「観る」なんだ。だから、ただ写真に撮ってくるだけじゃなく、「僕はこれを見てこんな風に思った」、「わたしはこれを大嫌いだと思います」そんな話をしてくれたほうがきっといいんだという話をして、みんなにカメラを撮ってもらいました。

○いいもの、わるいもの、気になるもの

そのときに、評価をしなければならないということで、いいもの、わるいもの、気になるものというイギリスの学校の景観教室のシートを見せました。気になるものは英語で ugly と言います。ugly は醜いという意味ですが、bad ではありません。なぜなら、これからみなさんが修景をすることで良くなっていく可能性があるからです。だから、今、ugly を表わす表情は怒っても笑ってもいなくて水平です。これから次第ということです。Ugly は醜いという意味で、醜いあひるの子の童話があるからです。醜いあひるの子は白鳥になります。それを聞くと、あひるより白鳥の方が偉そうな気がします、ugly が白鳥になるように、地域の人たちが何もしなければ bad になっていくよということです。こういうことをイギリスでは子どもたちに教えています。すると子どもたちは一番地域で見つけてくるものが ugly なんです。何とかしなければならぬものです。



○弘前の子どもたちが見つけた好きな景観

弘前で子どもたちに好きな写真を撮ってこいという岩木山の写真を撮ってきます。和賀西中学校の生徒たちが撮った景観の写真で、僕がびっくりした写真をお見せします。その地域に行って大好きな写真を撮ってこいと言った時、迷うことなくベストアングルを撮ってくるのが子供達です。

岩木山を撮っているこの子は、山と川と土手のセットで撮りたいわけです。何とも言えないです。すばらしい写真です。



夕日撮っている写真も何枚もありましたが、偶然撮れているとは思いますが、相当きれいないい写真です。



この木の写真はなんでこんな角度で撮れるのだろう。「ただ撮った」と言うのですが、やっぱりそういう恵まれた所で生活していると、とってもいいアングルが自然に備わっている、こういう写真を撮る子供がいるということが、地域の宝物です。



同じ木を撮っても、地域で違う子供が色々な写真を持ってきて好きです。「どうして好きなの？」なんて言わなくてもいいのです、こういうのは。「そうか、こういう所に君は住んでいるんだ」と。

白くてとんでいますが、これもすごいいい角度の

林です。



これは「線路は続くどこまでも」みたいな写真ですが、なぜかこの子はこういう写真ばかり撮る子でした。



これは雪が降ってこういう時にしか見えない2重のうまい曲線で、そういうものをぱっと見つけてしまう目というのが、やっぱり地域の子供達の間目というのは信用できると思います。

○黒岩小学校校歌

校歌というのは、本当に地域のものが見えてくるように作られているのです、昔のものは。最近のものは有名な人に頼んだりしますが、黒岩小学校の歌詞をずっと見ながら、目をつぶって景観をみた時に、一体どんなものが中に入っているのだろうと。

遠くの山に雪が残っている、陽炎が大地から出てくる、いつ頃の季節の話かなど。芽をふく梢があって、香ぐわしき肥沃な土地に立つと、先祖たちの汗の香りがする、これは間違いなく農業景観です。

だから遠くの山を見ながら、何となく春の雪解けのような時期になってきた時に、芽をふいてきている時に、おじいちゃんおばあちゃん、もっと前の人達も含めて、ずっとそこで土を耕して、そこで汗を流して、それで「この土 われら ああ 黒岩の

若芽と伸びん」、最後の「若芽」は子供達です。

これを見た時に、こういう歌詞の小学校で、子供達はたぶん何の意味もわからず声を張り上げて歌っているのですが、その地域の景観の部分、その地域の宝物が、生業も含めて全部入っているということがすごいと思いました。

僕の知り合いで、今岩手の大学に来ていて、景観の三宅先生という方がいるのですが、三宅先生の恩師の早稲田大学の教授が、学会でまさに校歌の研究をしていました。全国の小学校の校歌を集めて、どれぐらいその書いたものが今残っていないかという研究なのです。つまり、開発によって景観意識がどれだけ消えているかということをやっと研究していました。我々が景観を守る、その校歌が校歌じゃなくなってくる、それは守らなければならないという話です。

○子供達がみつけた嫌いな景観

弘前の子供がみてきた嫌いな景観は、公衆トイレが汚いとか、つぶれてしまったお店がこわい、でした。

和賀西中学校の生徒が撮ったこの何とも言えない変な景観。

黒岩小学校では、この蔵を撮った子がいっぱいいたのですが、子供の感性ですごいと思ったのは、「嫌いな景観」という言葉を使わないということです。



この写真を撮った子はタイトルを何というタイトルにしたかというのと、「かわいそうな景観」でした。こういう言葉が大事だと思うのです。嫌いじゃなくて、かわいそうだから何とかしなければいけない。彼らの言葉は、どんな言葉だったかというのと、「かわいそうな景観」「なおしたい景観」「こわい景観」「見られたくない景観」、そういう言葉を使っていました。

この看板は、まるで怪談のような雰囲気がありますが、この看板を通学路に今も使っています。



○子供達がみつけた気になるけいかん

僕がよく見せるのですが、弘前の子が撮った「気になる警官」。こういうユーモアがなければだめです。

これに負けず劣らず、和賀西中学校の子供達ももしろいものがありました。この写真は、言われてみれば、どう見てもトトロに見えてくるわけです。



確かにトトロです。これは線路を撮った子です。

この猫達も生きているのか、置物のような猫で、よく見ると結構怖いです。



この写真は、「安全第二」、最高の写真です。なおかつ、この「第二」もすごいと思いました。が、「ん興業」という、果してこれも左上にどんな文字がつい

ているのだろうと。人の名前でも後ろに「ん」がついているのはなかなかないと思うのですが、偶然とはいえ、この左が見えないようなカットの写真の撮り方とか、こういうのを撮ってくるユーモアのある、ウィットのある子供がいて、見ていて、この子供達ともう一度自分達の地域を体験すると、もっともっとおもしろいものが探せると思うわけです。



これは何の気なしの屋根の写真ですが、よく見たら、生き物というか不思議な忍者というか、これはたまたま雪が滑って、言われてみたら見えてきました。この瞬間を撮ったこの子もすごいと思いました。

(2) ためしにたべてみる

皆さんがやっている修景みたいに、いじってみよう、自分で飾ってみて、みんなに見てもらおう、食べてみるというのがあります。ちょっと食べてみたい、つまり味見してみよう、素材の提供がわかったら、ちょっと味見してみよう。

弘前でこういう風なことが23軒にうつったという話を、僕は前に「景観人養成講座」でしました。こういうことを始めた人を見て、周りの人が「私も飾ってみようかな」と思って、15年かけて、商店街やら町内会に、23軒にこれがうつっていくわけです。最初は、この変わった夫婦が、ただただ毎日花ばかりやっていたのです。そうすると、それを見てうつっていくのです。

お向かいです。15年目でお向かいはこちらまで育ちます。

これは3軒隣です。サンデーに行こうというものをしっかり買ってくるわけです。よくわかりませんが、コンクリートブロックまで買ってくるわけです。そして、弘前市の側溝を完璧に私物化しているわけです。これは、ガーデニングとは言えないかもしれません。

でも、そこまでやる人達はすごい人で、この写真

ぐらいでもいいし、この写真はさっきの人ですが、玄関から廊下、ベッドまでずっと並んでいます。

この写真は一番少ない家です。3個だって1個だっていいと思います。景観というのは、見る・見られるの関係ですから、量じゃありませんから、「私だって参加しています」というのは1個置いておくことでいいと思います。

最近できた喫茶店には、造花ではありますが、花が並んでいました。

この写真はその方々です。こういう方々は、みんなで仲良く、同じ方向を見て、景観事業をしているわけではないということです。この方たちは決して仲良くありません。他の人よりも私の方が上だということをお願いしたい人達ばかりです。

この人が最初に始めた人ですが、最初はみんなで楽しく始めました。今は出し抜くのです。つまり、この人がこの人に「私もう疲れたから、お金もかかるから、今年はやめた。」といった瞬間に、この人が「ちょっと待って。私が知っている情報によると、あなたのうちには今度サンルームを作るじゃない。そのサンルームの中に置ききれなくなった花を置くという噂よ。」と言った時に、「誰がそんな話知っているの?」と言ったら、「いや、みんな知っている。」という話になるわけです。そして、この人に「今年はどこで種買うの?」と聞いたら、「そんなの内緒に決まっている」と。「あなたと一緒に花なんか飾りたくない。」と言うということは、この人達はきっと持続可能だと思います。

この人に「毎日どのくらいやっているのですか?」と聞いたら、「2時間くらいかな。」と言っていました。すごいなと思いましたが、みんな怒るわけです。「あなたは平気で5時間やっているでしょ。」と。

ですから、この人達は変わった人達です。こういう人達もある種の自分達の色を出している人達です。ちなみにこの人は、このエリアを5年前に歩いていて、あんまり楽しいので引っ越してきた人です。

(3) おいしくたべるために工夫する

最後になりますが、この工夫というのが今回の修景です。

〇つばさ君の弘前探景(その1 ひまわり)

例えば、地域で壁に絵を描いて雰囲気をよくする、まったくのブロック塀に中学生がひまわりの絵を描いたというのが、弘前にありました。見事な絵です。遠近法で描いています。

○つばさ君の弘前探景（その2 へんしん!）

あるいは、この写真のように伝統的な建造物の地域だと、自動販売機や室外機を大工さんに頼んで隠してもらい、こういうカモフラージュも必要です。

僕が入っている景観の会議で、今回の北上の景観計画の中で自動販売機についてはどうしようかという議論がありました。皆さんご存じの通り、真っ赤な自動販売機が全国共通であります。赤いというのは、北上の場合には色でダメとしたので、自動販売機も一緒だろうという議論をしました。そうすると、企業がそれを塗り替えないといけないから、今回は検討事項にしようと言って止めました。

しかし、企業はもう先に行っています。この写真は一関市の駅前で見えた自動販売機です。もう飲料メーカーもこういう世界に突入しています。だから遠慮なんかする必要ありません。もう彼らだって赤がまずいと思っているのです。今こんな風に企業は変わってきています。

この写真は、何年か前に名古屋の「愛・地球博」で見た「サークルK」です。普通の「サークルK」はけばけばしいオレンジと赤などの色のコンビニです。それが「愛・地球博」のためだからと言って、このようにしました。こんなことができるのだったら、なぜ普段できないのか、と言いたいのですが、だから、工夫すればできるということです。

○つばさ君の弘前探景（その3 どこでもドア、カメレオンみたいだ）

せっかくいい建物なのに、この電信柱が邪魔です。どこでもドアというのは、向こうに行ったら江戸時代みたいなのに電信柱が立っているという話をしたら、弘前市役所の方が僕のコラムを見て、みんなで相談して、東北電力に言ったら東北電力から「そんなお金はない」と言われてやったのが、この写真です。ちゃんと工夫すればいいということです。

今回、修景で皆さん色んな、頭を使いながら体を使いながらやってらっしゃいますが、知恵も必要です。電信柱を埋めるわけにはいかない。お金がないのです。お金がなくて、この電信柱をどうやったかという話を、黒岩小学校の子供に聞きました。黒岩小学校の子供は考えながらも正解を言いました。「隠してるんだ」と。つまり木の中に隠すわけです。そういうことで景観に取り組みます。これはどうやって隠すかということ、よく見ればわかるわけで、この

写真のようになっているわけです。この写真だとすぐわかります。ちゃんと電線もあります。その周りを木で覆っています。この杉の木がしっかり茂っていれば電線は見えません。横を見ながらカニのように歩く人はいないので目立ちません。



これは修景事業をしっかりとやっています。お寺のお坊さんたちはここまでお寺の敷地なのですが、敷地内に木や電信柱を立たせることをオーケーしました。お坊さんたちも景観人だし、行政の人も景観人だし、すごく上手にやったと思います。こういった工夫をしていくことも修景の一つで、そういう可能性も僕は今回の活動にすごく見ます。

○私の大切な風景

最近、うちの学生が弘前で私の大切な風景、大好きな写真を公募しました。そこで1枚の写真を見て、学生が言いました。「先生、この写真のタイトル何だと思いませんか」。

この写真は弘前の仲町伝統的建造物群保存地区とあって、東北地区で一番最初に指定されたのが角館とここで伝統的建造物群です。

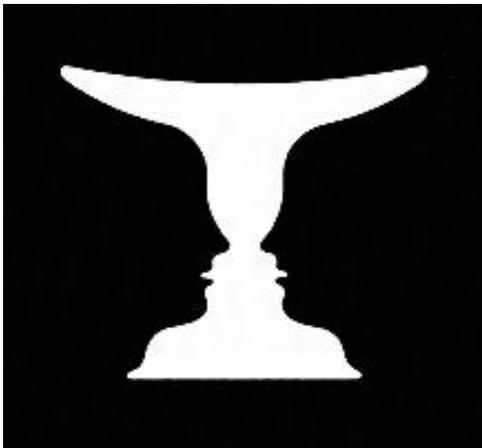


この写真にどんなタイトルが付いていたかという「岩木山」です。岩木山が写ってはいませんが、誰がどう見てもこの周りの生け垣のまちなので、伝統的な街並みの景観だなど見るのですが、この写真

の持ち主は岩木山を撮りたかった。

岩木山を後ろに見て、このまち並みのどっちが背景かと言ったら、誰が見ても岩木山が背景なのですが、この人は後ろの岩木山が主役で生け垣が背景だといいます。そしてその背景が見事だから岩木山と言えるのであって、これがあまりにもひどい景観だったら後ろがおかしくなってしまうんです。そんなときに、周りの電信柱、これはないだろうというのがこの写真を見て一発で分かったわけです。さすがに弘前市役所もこれを見て、この写真だけはまずいと思います。

ルビンの壺っていうのがあります。向かい合う人間に見える人と壺に見える人がいます。実はそれに近いことがさっきの写真にもあって、この人は人と違って岩木山をメインに見ています。



最近、マンションが建ったために〇〇が見えなくなるということが起きています。「どっちが主役かってマンションでいいじゃないか、中心市街地活性化で」。いいえ、もしかしたらとんでもないものを作って、前に背景になるべきものを置いてしまっているのではないかということです。弘前市役所は来年度の事業でこの電信柱を全部撤去することに決めました。それは市役所も歴史関係の事業の補助金を使ってやることになりました。1枚の写真から皆が考えていくのです。北上の黒岩小学校、和賀西中学校、口内小学校の子どもたちがくれた写真をしっかり見ていくと、北上がやるべき景観施策が見えてくるような気がします。

〇おわりに

景観は自分たちで関わっていくものです。私たちはそんな人々のことを「景観人」と呼んでいます。北上ではこの1年間でたくさんの景観人が出てきましたし、これからも出てくると思います。いいえ、高橋敏彦さんの言葉を借りれば10年ぐらい前から

いるのだと思います。ですから皆さんも楽しみながら景観を育ててみませんか、これが皆さんの発表を見たうえでの感想です。大切に作る風景を、自分たちがどうやって関わっていくかを考えていただきたいです。いいなだけでなく、どうやって関わっていくかが景観人の1歩であり、それをやっていらっしゃる方々が今日、前に座っているのです。

Ⅶ. パネルディスカッション (第2部)



北原 啓司氏

木村先生にお話をお聞きしたいのですが、先ほど、木村先生が、「子どもが写真を発表した後に、僕が一人一人別々のコメントで褒めた」とおっしゃいましたが、そうしないとだめだと思ったんですよ。というのは小学校の教育って、 $5 \times 5 = 25$ ということを学ばなければいけない、みんな同じ答えを見つければならない学ぶ時間に比べ、あの写真みたいに同じ写真を撮っても違うさ、別々だというようなことを学ぶ時間はそんなにないような気がして、そういうことから言うと「あの人がああ言っても、僕は違っていい」というようなことを、僕はあえて言いたかったので、僕はわざと一人一人別のコメントをしてみました。

先ほど、将来、写真で仕事をしてみたいと言った子がいたと言っていましたよね。その子はどんな写真を撮った子ですか。

木村 徹氏

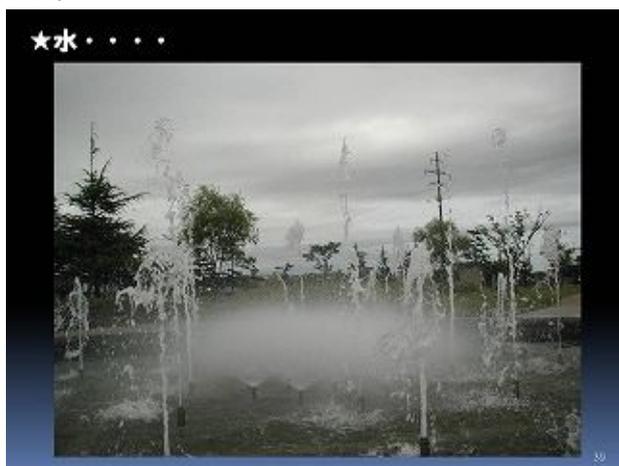
「見ないで」というタイトルの畑にゴミがある写真です。

北原 啓司氏

実は、弘前の小学校で噴水の写真を撮ってきた女

の子がいて、噴水を撮ったほとんどすべての写真が周りのものも写った写真だったのですが、水だけを撮ってきた子がいました。すごいと思って、誰が撮ってきたのと聞いたら、誰も手を上げないんです。

もう一度聞くと、一番後ろで引っ込み思案な女の子が小さく手を挙げました。すると、クラスの子が「え、おまえかよ」と言いました。その子はたぶんすごく自信がない子だと思います。その次にとても美しいクモの写真がありました。「このクモ、きれいだね、これは誰が撮ったの」と聞くと、またその子でした。



その後、教頭先生に会ったときに「先生があんなことを言うから、わたしはカメラマンになるなんて言い始めました」なんて言っていました。よかったですねと話をしていたんですが、つまり、そういう写真を撮る子は撮れる子なんです。そういう写真を撮れる子を僕はすごいなと思って、今回も黒岩小学校の子どもたちの写真を見たときに、いっぱい撮ってきた子もいましたけど、すごく背の高い中学生のような体型の男の子が小さいものを撮ってきて、和賀西中学校でもすごく細かい写真を撮ってきた子が体の大きな男の子だったので、不思議だなと思いました。

子どもたちは、言わなくてもいろんなものを見つけてきて、どんどん発展できると思います。みんな個性が違います。黒岩小学校くらいの規模の学校だから、一人一人の写真を見て「お前の写真おもしろい」なんて言えますが、大きいクラスになるととてもそういう時間がなくて、小さい学校だからこそあんな風に皆で歩いて、一人一人の個性を伸ばせるような授業ができるのだなと思いました。

木村 徹氏

そうですね。少人数だからこそできることだと思います。

北原 啓司氏

ああいう学校だからこそ、本当に一人一人が大切にしているものをしゃべって聞いてができます。写真というのは、なぜそれを撮ったかお話を聞いたり、コメントを書いてももらったり、先ほどの「見ないで」というのもあれを書いてもらうことで全然意味が違ってくるので、皆さんもタウンウォッチングや街並みの写真を撮ったり、自分たちの地域を点検するときにタイトルをつけたりすると思います。それから何が撮りたかったかというコメント付きでやると思います。

立花では皆さんでマップをつくるときに、歩き回ってデジカメを使いながら、思い思いのものを撮り集めたりしているのですか。

三浦 啓一氏

今回のマップ作りは、氏神さまなど全部作ってあるものを調べ上げようというのが基でした。9つの地域に分かれています、それぞれの地域の人たちが入っての調査でしたので、全て調査されたのではないかと思います。

北原 啓司氏

イギリスの景観学習では、見つけて、調べて、考えて、最後提案するという4段階あるのですが、それがもしかしたら小学校の総合的学習と同じだと思うのですが、立花ではほぼ自分たちの地域のものについては見つけ、調べあげた段階で、さあこれからという所だと思うのですが。

三浦 啓一氏

はい。地元でさえも「こんなにあったの」とびっくりしたと思うんです。

ですから、これを皆さんに分かってもらいたいというのがあります。それぞれ歩いて見るでしょうから、それぞれの寺社の所に標柱を立てました。全て案内、道標含め70、80建てました。

皆さんに歩いていただいて、ここにこんなものがあるんだと、様々な名前がついた神社がありますので、それを地域の人たちがなんでそんな神社があったのかという不思議さをこれから持っていくと思うんです。

子どもたちも学校にマップをあげたのでそれを活用していただけたと思いますし、地区内外の人がマップを活用したり、神社や氏神を大事にしていこう

というのが根底にあります。どう生かすかは、地元ではボランティアガイドの養成なども予定しています。

北原 啓司氏

今年の活動内容を見せていただいて、参加者が70名、90名とありました。

まったくのボランティアで集まってすごい人数だと思います。いつもそちらは、そういった活動の時に人数は集まるのですか。

三浦 啓一氏

こういうボランティア活動で人が集まったのは今回が初めてだろうと思います。というのは、展勝地の中に展勝地お花畑の会、それは公園整備のところにお花を植えたり草刈りをしたりする会やそれから地域によっては農地研修といってそれぞれ農家の皆さんから草刈りを請け負ってやるグループがありますし、また展勝地ツツジの会という会も作っています。そういうメンバーを軸にしながら、9つある地域の自治会にご協力いただきました。9つの地区がありますから、10人ずつ集まれば90名です。

これだけの人数が集まったのは私も驚いています。

北原 啓司氏

ああいうことが持続していくことが一つの目標だと思いますし、何かの時に集まる環境があることがすごくいいなと思います。

三浦 啓一氏

はい、地域の人たちの中では、ここは北上の顔となる場所だという気持ちがどこかにあるのではないかと思います。



北原 啓司氏

ある種のプライドですね。

僕は昆野さんにちょっと違う立場で聞きたいのですが、景観施策というと、どちらかというと昔は歴史的な街並みとか自然景観とか、いろいろな開発に対して守らなければならない、そうしないと大切なものが消えていってしまうぞというもの多くて、どちらかというと景観行政は保護・保存だという話があるのですが、昆野さんたちがやっているイルミネーション含めて、この中にもデザインや建築の立場の方がいらっしゃいますが、そういう立場の方はものをつくっていくじゃないですか。

まさに自分が北上の景観に関わるわけです。いい景観のまちであればあるほど、そこに形をつくっていく人の責任はあるし、怖さはあるのですが、その辺り、ああいったイルミネーション含めてつくっていく立場として北上という風土に新しい景観をしてアクセントをつけていくことに対して、日頃どんなことをお考えですか。

昆野 将俊氏

僕がNPOを立ち上げるに至った経緯はやはりさくらホールが関係しているんですが、さくらホールは今、居心地がいい施設で利用客以外のお客様も多く賑わっています。

それはなぜかという、さくらホールを計画をする数年前から、さくらホールの建設ワーキンググループという市民グループが参加して、さくらホールをつくるならどうい建物がいいかをみんなで話し合いました。それでできあがった形があの環境です。

実際、できてみるとそういうものをつくただけの人で集まって楽しくなる、そういう効果があるので我々も中だけでなくさくらホールの外も、自分たちもまたここに来たくなるようなまちにできないかということで、さっきのように1日に100人も集まることは無理なのですが、1日5人、10人集まれば10日集まれば100人分の仕事になるので、やり始めました。そうしたらできました。

いろんな意見も頂きました。デザインや色が悪いとかいろいろなことがありましたが、参加した人たちはあそこに行ってみたくなる、例えばさくらホールの外側に光の丘というのをつくりました。そこに光のオブジェを置いたりして、自分で作った人は自分で写真を撮ってみんなに見せます。

来年はどうしようとか、そのように発展して人が人を呼びます。そうすると何となく我々の本来のNPOの活動目的が人と芸術が触れ合うまちをつくることなのですが、景観というところの切り口は全く

違ったのかもしれませんが。

北原 啓司氏

景観と関わるということですからね。もちろん、万人が見て美しいデザインなのかということを書いてしまうと客観になるのでわかりませんが、少なくとも自分が関わりたいと思ったし、関わったものが実際にできてきて皆に見てもらっている、そういう参加の楽しみ方があると思います。

インフルエンザのせいで生徒さんが参加できなかったということですね。

昆野 将俊氏

はい。やるにあたって我々素人にはアートは敷居が高いなという感じがしたので、美術部の生徒にいろいろ考えてもらった方がいいと思ったのですが、インフルエンザで残念でした。

子どもたちはイルミネーションで光のオブジェをつくるという行為そのものに興味を持ってくれたようです。

北原 啓司氏

先程、僕が見せたひまわりの駐車場の絵がありますが、あれは殺風景な駐車場のオーナーが後ろの中学校の美術部の生徒の卒業制作として描かせてあげるからと言ったのです。するとはりきって書くわけですよ。ですから、NPOにしても地域にしてもそういう若い人が活躍できる場を作ってあげるだけでも十分、立派なものを作ってもらえます。イルミネーションも若い人たちに広げていく可能性があると感じていました。

昆野 将俊氏

今度は学生さんや企業も考えてみようかと思っています。企業でどこかスポンサーで企業イメージアップにもつながると思います。

北原 啓司氏

口内でも岩手大学の学生たちと地域の方々一緒に取り組んでいます。今はイルミネーションですが、次なる世界でいろいろ見てみたいと思います。実は景観資産に認定するときに、これは冬だけなんだけれど資産に認定していいのだろうかという話がありました。季節感があるので、だって展勝地の桜があるのだから、イルミネーションも冬の名物ということでもいいのではないですかとなりましたが、それ

以外の活動で自分たちの色を出してみようというのがありますか。

昆野 将俊氏

冬は寒いので、かえって夏の方がいいのではないかという話が出ました。夏だと外でイベントもできるし、景観資産認定のなかに冬の時期にやっていると出ってしまったのですが、期間の見直しも考えています。

北原 啓司氏

資産は育てていかなければなりませんから、進化して行ってほしいので、変えていいのではないですか。

及川さん、二子は資産がいっぱいある地域なのですが、資産認定すればするほどある種の責任も発生してきて、自分たちが先祖からもらった資産を放っておくとどんどん悪くなることもあるから、今まで以上に自分の子どものように育てなければならないという話も出てくると思います。

ああいうものは皆さん、生活の延長、毎日見ている景観として自分たちの景観だと言えるような生活の関わりがある地域だから言えるのかなという気もするのですが、実際、若い方はああいうものをどのようにみていらっしゃるのでしょうか。

及川 正男氏

正直言って、二子の町民が知らないことが多いです。町民と言っても生まれて育てて80、90歳までいる人はほとんどいません。嫁に来たり、新しい家を作ってそこからスタートしたり、例えば80、90までいても10年間いなかったとかそういう人が多いので、あそこは知らないということが結構あります。

4年ぐらい前、とにかく二子を見ようということで、歩いて二子を見よう会という会を体育の日に設定しました。最初は誰も来ませんでした。天気も悪かったからというのもあり、職員・関係者5、6人で歩きました。

今度は子ども会をそれにぶついたり、今年は老人クラブや衛生組合の人をお願いしたら、同じ歩くならゴミを拾って歩こうということで、100人近くになりました。

画像、音だけでなく目で見させることをこれからも続けたいと思います。少年学級、婦人学級、高齢者学級などすべてにぶつけ、地元の先生を生かして

続けていきたいと思っていました。

Ⅷ. 質疑応答

参加者

私は先ほど認定していただいた古舘神社に関わっています。

以前は雑木で何も見えなかったのですが、相当伐採して見えるようになりました。その時に思ったのですが、修景とは景色を直すということですよね。修景と自然破壊との板挟み、心のどこかではまずいかなと思ったのもあったのですが、きれいな景色を見ることを優先しました。

先ほど、立花さんでも陣が丘に風穴を開けるとありましたが、私たちもそれに近いようなことをやってきて、これからも少しずつも切らなきゃいけないし、でも自然も残したいという板挟みになっているのですが、北原先生はどのようにお考えですか。



北原 啓司氏

僕は自然の専門家ではないので、そのことに対して的確に話できません。三浦さん、高橋さんはどのように思いますか。

三浦 啓一氏

陣が丘に風穴を開けようという発想ですが、地元の人とすればあんな山ではなかった、元に戻そうというのが原点です。今、私たち地域も展勝地連絡協議会に入っているのですが、その中でも様々議論されています。というのは、今自然に育ってきたのに何故、それに手をかけなければならないんだ、自然は自然のままでいいんじゃないか、いろいろな動植物が育っているのにあえて手をかけるのかということです。

特に展勝地河川敷は、前はすごい林で沼も15、

16個ありました。

それを平らにして今のような形にしたわけです。しかし、今は入り江の所から北側に中洲がありますが、あそこには一切手をかけていません。北上川にはたくさんの鯉、フナがたくさんいますし、たくさんの柳、ヨシのおかげで北上川の鯉があそこに来て、魚が住む空間が守られているわけです。

自然と景観とをどうマッチさせるか、板挟みになるときもありますが、今私たちがやっているのは原風景にこだわっている部分が強いていると思っています。

高橋 敏彦氏

先ほどのご意見の方もけっこういらっしゃいます。今回、刈り払いをされた団体も結構ありました。その中で、次に刈り払い等をする場合には、北上市内にも動植物を研究されているNPOなどけっこういらっしゃいます。それから、本当に人の手が入らない自然ではなく、人が手を入れることで守られてきた自然もあるとのことですので、次にこういう修景実験をする際は、仲間に入っていただいてやっていただきたいという声はたくさんありました。

北原 啓司氏

刈ったからきれいになったということではなく、昔はあそこまで見えたのに今は見えなくなった、いつも見ていた原風景にもういっぺん戻したいと思うために刈るんだという話だったら納得できる部分があるのですが、今おっしゃったように整備する人はどうなんだと言われると、これをやることでこの植栽にどういう影響を与えるか本気で考えようとする、そういった専門家の知恵を借りないと怖くてできないですよ。

我々はその見えやすくするために切るんだという話は、方法としては本当はいい言葉じゃないかもしれませんが、その辺り、でも近づかなければ水が見えない、子どもの頃はお父さんは川辺に行ったのに、見えなくなったというような出来事をもういっぺん再現したいという時に整備していくという希望は理解します。

今日は、認定式、活動報告で、北上市のいろいろな局面で景観という言葉の切り口にしながら、先ほど、三浦さんがおっしゃったように、景観活動というのではなく、地域づくり、地域計画だということです。景観を一つの拠り所としながら、いろいろな活動をしている方々の話を聞いて、皆さんも元気に

活動を継続しながら、景観人でいてくださいと言いたいと思います。

最後、高橋さんの方から来年度の活動に向けてコメントをいただきたいと思います。



高橋 敏彦氏

今年はたまたま運よく、国からの予算があつて景観計画を始める年にこれだけ多くの事業ができたというのは北上市にとって非常によかったと思います。しかし、来年度からこういう予算がつくということはないと思いますので、何らかの工夫をしながら今年やった事業をぜひ続けていっていただきたいと思っています。

一つ、住民の皆さんの力はこんなに大きかったのかと感じられたのは、まちづくり修景実験で多くの住民の皆さんが関わって素晴らしい事業をされた成果が見えてきたということです。これをぜひ来年度以降も続けられるよう考えていただきたいと思います。

財源がなくてもできるものはぜひやっていただきたいと思いますが、この20万であれば例えば、来年度も予定があるコラボチャレンジという事業ですとか、県でやっているNPO基金、県の景観点検これは来年あるかどうかわかりませんが、そういう事業であれば20万程度の助成は出ると思いますので、ぜひそういった情報は皆さんの方へ流したいと思っていますので、またチャレンジしていただきたいと思います。

こういう修景実験をすることによって、景観が良くなるだけでなく景観まちづくり事業にかかわると目に見えやすい、取りつきやすい、まちづくりに手をつけやすいということがあります。それをやることによって、他の関連のまちづくりの課題なども見えてきますので、これからのまちづくりに非常に役立つツールとして考えられますので、景観修景実験

にまたチャレンジしていただければありがたいと思います。そういったサポートもしていきたいと思いますので、宜しくお願いします。

北原 啓司氏

最後に皆さんへの注文、こうしていかないともつたないですよということをお話します。今回このようなことが多面的にできたのは、国の景観づくりの支援事業を北上がとったからです。ただ、おかげで弘前が落ちました。落ちたのに弘前市役所は、市民の人たちに好きな写真をいっぱい送ってもらおう、東京のコンサルさんとかを呼ぶためにお金を出すのではなく、市民が専門家だから、その写真を送ってもらおう、そして、その写真の展覧会をしていました。

つまり、自分たちの身の丈のお金で長続きできそうな仕組みを考えるといいということです。今回、モデル事業でお金をもらおうとその年はいいのですが、毎年こんな風にできたらとても幸せなのですが、それは無理なので、どうにかうまく続けないとせっかく始まったのに、電車が走り始めたのにもうダメですかというのはもったいないと思います。

僕が今年度の事業の総括として皆さんにお話ししたいのは、こういう活動ができているまちというのは本当に素晴らしくてうらやましいのです。いろいろな活動をして、子どもたちを巻き込んでできるのです。それが今回、このお金がついたからという話で、では来年どうするかというときにももちろん、今のような大きいことができなくても、予算が少なくても何かうまい形でみんながつながっていく仕組みを、みんなの知恵を集めて考えていかなければいけないというのが僕からのお願いです。

今、活動している人たちの横のつながりを作るとか、景観資産も今回53の応募がありましたが見て、うちも資産にして育ててあげたいなという気持ちがあればいつでも応募してくださいとかたちで広がっていければいいなと思うし、そういう意味で少しずつ、これも景観資産、これも景観資産、恥ずかしくないように整備しようという話になっていく、そういう身の丈の持続可能性のようなものが景観に必要なだと思います。それを皆さんに育てていただきたいというのが関わった人間として、僕からのエールになります。

釈迦に説法でやっていらっしゃることは、地域でどうやって持続させていくか、この景観を育てながら地域の子どもたちを育てていくか、ただ長続きさ

せるだけでなく地域をしっかりと持っていきたいと思っていられちゃうと思うので、今年の活動が以後の活動につながっていくと思いますが、お金の問題になると、実際問題として影響してくるのでその時に我々はどこまで自分があるエネルギーを出して、あるいはある覚悟をもってこの地域で踏ん張っているかみたいなことを考える時期がきます。それは警告でなく、予告として言っておきたいと思います。

その時にももちろん、行政もこれに応募して、数多ある中から弘前を蹴散らしてとれたわけですから、そういった工夫はできると思いますし、良い資源もたくさん持っているのでぜひ、頑張っていたきたいと思います。

最後になりましたが、ここにお集まりの様々な活動をして今回、認定されたグループ、修景実験させていただいたグループ、今日パネリストになっていた4人と高橋さん、何よりもこういうことを進めていられちゃう北上市の景観行政に拍手をして終わりにしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

〇おわりに

司会

北上市は様々な市民活動団体さん、16の自治協議会さん、その他多くの各地区の皆さま、それから、北上市では初めてかもしれません、小学校、中学校、高校、大学、みんなが今年の景観づくりに関わってこれからもどんどん進み出そうというのが今日も感じられたことと思います。

景観計画というものは、皆さんと一緒に行政、市民の皆さんが三人四脚で進めていくものだということが景観計画の中でうたわれています。

本日、主催者であります北上市建設部部长、青木さんにご感想、次年度への意気込みをいただき、終わりたいと思います。

北上市建設部 青木 稔

今、北原先生からいろいろな課題が出されました。二子地区、立花地区では自分たちの地区を知らなかったという大きな課題があって、これからパンフレットを作って地区に配布するというのですが、これから資産をどう生かしていくか、次の世代にどうつないでいくかが大きな課題ではないかと思いますので、今年度だけでなく、来年再来年、ずっと続けていってほしいなと思います。本日は本当にありがとうございました。

<ふりかえり>

〇二年前、市民ワーキング当時は景観とは何ぞや、関心が無さそうに感じていたが現在はすごい盛り上がりになった。この後が楽しみだ。

当初原案が「規則」からスタートした時、違和感があったが「推せん」形式に変わったことも良かったと思う。

大人より小学生の感性の方が良いと思った。大人の自己反省、未熟さかな。

〇タイトルの意味もわからず、知ろうともせずにしたことに反省しています。

来年度は地域民に知らせて新しい発見をしていきたいと思います。

〇良いところを再認識しました。

〇北上出身なんですけど、北上で景観を考え始めていることを知り、嬉しく思いました。地域資源は多いのでこれからは楽しみます。

ただちょっと気になったのは、もうすこし中心市街地のことが多くとも良かったかもしれません。青柳町も静かになりましたが、周辺をより良い景観に誘導していってもらえれば幸いです。よろしくお願いします。

〇①北上市には史跡、詩跡、歴史跡が数多くあるが、今後の維持管理が大切。今後開発による変貌が気になる。

②建築物、色彩等の条例管理にも関心があるが。

③広瀬川周辺の話も出たが種々評価が2分しているようだ、費用対効果も充分考える必要がある。

④市民のモラルの問題

⑤創意工夫教示。

〇認定された景観資産を改めて見てみると、こんな素晴らしいところがあるんだと改めて感じた。

〇自分たちが参加した所の他にも、いろいろな活動がされていたことや、内容もよく知ることができた。北原先生からのパネルディスカッションでは、それぞれの経験、出会い、活動を踏まえながら「景観」について興味を持たせられる話を聞かせていただきました。小学生の素朴な感性には感心させられた。

○良かったことは、スライドを見ていて私の知らない美しい場所が北上市内にたくさんあることを知ったことです。ぜひ私もカメラを持って訪れてみたいと思いました。また、小学生が撮った写真はとても興味深いものでした。単なる木が「トトロ」に見えたり、金属が「UFO」に見えたり…大人ではとても想像すらつかない物の見方の豊さに感心していました。

景観づくりをするうえで、これからは様々な世代で取り組むことができれば素晴らしいだろうなと感じました。

○各地区の景観への取り組みを知ることができて、貴重な時間を過ごすことができました。

景観と自然の動植物とのかかわりも考えさせられました。

「景観人」ということを念頭に、物を見る大切さを感じました。視点をしっかり持つことですね。そのための感性をみががなくては。自分も町づくりにかかわれるのはうれしいことです。

スライドのBGMはちょっと気になりました。イメージが限定されてしまうような…。歌詞がじゃまになりました。

○私達の地区でも景観を良くしようということで、一週間くらい前から刈払いや整備をしました。私達は常に見ている「岩」でしたが景観という名で作業をしました。皆さんが楽しく仕事をしました。これからも地域で考えて行こうと思います。

○景観と一言で言ってきたが、何かすごく重要な意味を持ち、まちづくりだけでなく人づくりなど、無限な可能性を考えさせられる言葉と感じました。何か楽しくなってきそうな予感が…

○地域の景観づくりのかかわり方に役立てたり、地域のいいもの、わるいもの、気になるものの点検しながら地域づくりを進めて行きたい。

岩沢自治会が申請した水沢鉱山跡について、一日も早い認定されるための活動をしたと思った。

○北原先生のお話し大変参考になりました。1枚の写真が人を動かす。

他地区の活動も参考になりました。身近にあるさもない風景が愛しく感じました。

○景観づくりとまちづくりの結びつきの必要性を痛感しました。

景観づくりの助成を復活しませんか？

○今年はさすがに、いろいろな活動をしているなど改めて思った。

次年度以降も継続する方法を考えて欲しい。

○地元で眠っている景観を、もう一度掘り起こすことの必要性を感じた。稲瀬の歴史を探究し、それに基づく景観を見つけ後世に伝える必要性を強く思いました。

関わりを持つことの重要性を感じた。(今まであまりかかわってこなかった)

○①景観点検が磨かれるフォーラムの流れであった。

②景観づくりにたずさわっている人には、心がさっぱりして、前向きで明るい。

③地域づくりは景観から取り組むことが最もよい方法の一つであると思った。

○黒岩小学校の「見ないで」や「トトロ」など、子どもの景観を観る目は「きたかみ景観資産」とは違う、より身近なものを見ているなどと思いました。景観というのは道端の花のような目の前にあって、見る目によって千差万別なものだと思いました。

○貴重な話をたくさん聞いて良かったです。これからしようとしてきた事や、してきた事の内容を詳しく聞いて良かったです。

○このまちづくりフォーラムに出席して、北上市の景観に対してのイメージが変わった。

○今日のフォーラムは参加し北上にはたくさんのいい所が、まだまだいっぱいあるんだなって思いました。これからもたくさんの活動に参加、みんなが自信を持って他の地域の人たちにも自慢でくるような地域にしていけばいいなと思います。